

公益社団法人 日本船舶海洋工学会

令和元年度（第124期）事業報告

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

日本船舶海洋工学会は、船舶および海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行っている。令和元年度は和文・英文論文集の充実に努力し、36年ぶりの日本開催となるPRADS2019国際シンポジウムを開催したほか、第8回目となるWorld NAOE Forumを開催した。以下に活動報告を事業区分ごとに示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

(1) 春季講演会

令和元年春季講演会は、6月3日(月)、4日(火)の両日にわたり、長崎県勤労福祉会館（長崎市）にて開催され、288名の参加があった。一般講演94件、OS 4テーマ30件、合計124件の講演が行われた。また、日本船舶海洋工学会賞（論文賞）を受賞した2件の論文著者による受賞記念講演が行われ、長崎大学大学院工学研究科教授橋本州史氏による「船舶海洋人材育成の課題と長崎地域における活動例」と題した特別講演が行われた。若手優秀講演には36件の応募があり、厳正な審査を経て若手優秀講演賞3件の表彰を行った。企業展示は4社の参加があり、うち1社はランチョンセミナーも実施した。懇親会は197名の参加があった。

(2) 秋季講演会

令和元年秋季講演会は、11月21日(木)、22日(金)の両日にわたり、西はりま地場産業センター（兵庫県姫路市）にて開催され、314名の参加があった。一般講演75件、OS 3テーマ14件、IS（国際セッション）2テーマ13件、合計102件の講演があった。また、姫路市教育委員会小林正治氏による「姫路城 修理の系譜」と題した特別講演が行われた。ポスターセッションには20件の応募があり、厳正な審査を経て最優秀賞1件、優秀賞3件の表彰を行った。企業展示は9社の参加があった。懇親会には177名が参加した。

(3) 講演会企画委員会

委員数：古川芳孝委員長ほか9名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季講演会の企画・運営を行った。講演会の活性化策について検討を行い、実行可能なものから順次実施するとともに、講演会運営に関する現状の問題点を整理して改善案の検討を行った。また、国際セッション（IS）の位置付けを明確化して運営方針を定めるとともに、講演会開催時におけるテーマ申請はOSと共通の様式を使用することを決定した。

【2】論文集発行

(1) 論文審査委員会

委員数：岡田哲男委員長ほか21名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第29号、第30号を発行した。また令和2年3月12日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞（論文賞2件）および奨励賞2件を選考したほか、国際的な引用インデックスSCOPUSへの登録を申請するため、対策をとることとした。

(2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第29号を令和元年

6月に、第30号を令和元年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第29号 (令和元年6月)	17	179	900
論文集第30号 (令和元年12月)	20	214	900
計	37	393	1,800

【3】英文論文集（Journal of Marine Science and Technology）の発行（科研費補助事業）

(1) JMST 編集委員会

委員数：高木健委員長ほか47名

世界各国からの学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を90編集めてJMST Vol.24 No.2～Vol.25 No.1を編集した。日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、基幹論文4編のオープンアクセス化を図り、国際情報発信の強化を行った。

(2) JMST 刊行

JMST Vol.24 No.2～Vol.25 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。掲載待ちの論文数が増大しているため、頁数を各号300頁強とし掲載論文数を増やして解消を図った。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.24 No.2 (令和元年6月)	24	329	450
Vol.24 No.3 (令和元年9月)	21	337	450
Vol.24 No.4 (令和元年12月)	24	337	450
Vol.25 No.1 (令和2年3月)	21	325	450
計	90	1328	1,800

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：菅勇人委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第43回	01.07.05	エイムアテイン	11名	9件
第44回	01.10.30	日本海事協会	8名	7件
第45回	新型コロナウイルスのため次年度に延期			

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議（2件）
- ・研究委員会の終了評価に関する審議（5件）

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：木原一委員長ほか7名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や産業界のニーズを踏まえ、わが国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	01.06.27	神戸大総合学術研究棟	10名
第2回	01.10.31	九州大学西新プラザ	8名
第3回	02.03.05	新型コロナウイルスのため中止	

実施事項：

- ・第13～15回の推進・運動性能研究会の企画、実施
- ・重要研究課題の議論および次年度開催するシンポジウムの議論

構造・強度、材料・溶接分野

委員数：後藤浩二委員長ほか9名

構造強度・材料溶接の研究や共通構造規則に関し、船体構造研究会および材料・溶接研究会の活動状況などの情報交換を実施した。

回	期日	場所	出席者
第1回	01.11.27	リファレンスはかた近代ビル	10名

実施事項

- ・各研究会における活動の情報交換
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・夏の学校（構造強度・材料溶接）の開催延期と次年度開催案
- ・2019年度分野研究交流会の開催（01.11.27、リファレンスはかた近代ビル、出席者28名、研究発表4件）

工作分野

委員数：青山和浩委員長ほか11名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	01.10.12	函館海洋研究センター	9名	5件
第2回	01.10.03	大阪大学大阪オフィス	8名	5件
第3回	02.01.21	九州大学大阪オフィス	9名	6件

設計・艤装分野

委員数：篠田岳思委員長ほか6名

造船設計部会、船体艤装工作部会、機関艤装部会、電気艤装部会の4部会を連携させ、隔年で横断的な共同シンポジウムを開催する。

実施事項：

第14回造船設計・生産技術研究会シンポジウム

「港湾における操船係留技術の現状」をテーマにした講演と各部会の研究成果の報告を実施した。

回	期日	場所	参加者数
第14回	01.09.26	福岡県中小企業振興センター	54名

海洋工学・海洋環境分野

委員数：井上俊司部会長ほか11名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記の通り開催した。

回	期日	場所	出席者数
第43回	01.08.09	リファレンス小倉魚町センタービル	7名
第44回	01.12.13	東京大学本郷キャンパス	6名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画と開催
- ・関連研究委員会（S-15, S-16, P-53）の活動支援、企画立案
- ・北九州市沖・浮体式洋上風力発電システム見学会の実施（1.8.9）

情報技術分野

委員数：木村元委員長ほか11名

造船および海事産業の情報技術に関する研究・開発動向を調査するとともに、今後の研究・開発の推進を目的として以下の通り実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	01.05.22	JMU 呉	11名	3件
第2回	01.09.04	九州大学	11名	2件
第3回	02.01.15	大島造船所	11名	3件

実施事項：

- ・研究企画委員会の審議事項の報告と連携
- ・情報技術研究会の運営方法に関する審議
- ・プロジェクト研究会（P55）活動進捗
- ・iShipping研究開発に関する審議
- ・次期プロジェクト研究会についての協議

3. プロジェクト研究委員会

今期は4件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期新たに活動を開始した研究委員会は2件（P-57, P-58）、活動を終了した研究委員会は2件（P-53, P-55）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-53 波力発電における水槽試験での模型縮尺影響研究委員会

委員数：村井基彦委員長ほか8名

本委員会として対象とする OWC 型波力発電機構の水槽実験に関して、今年度は、8月-9月、10月、12-1月にかけて縮尺の異なる3種類の円筒型および角柱型実験模型の水槽実験の追加を実施し、その解析および検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第6回	01.03.27	WEB会議	3名	2件

P-55 「海事産業における製品情報の高度利用のための情報共有基盤SPEEDSのプロトタイプの実装」研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか51名

造船所、船用機器メーカー、船級協会、船主、研究機関を含む海事産業全体で船舶の建造から運行に渡るライフサイクルの中で生み出される様々な情報について、3次元情報を核に交換し、各プレーヤーが迅速かつ有効に活用できるようにするための海事産業内情報交換標準を活用したプロトタイプの、効果検証と社会実装に向けた検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第7回	01.05.22	JMU 呉	32名	1件
第8回	01.09.04	九州大学	27名	1件
第9回	02.01.15	大島造船所	28名	1件

実施事項：

- ・プロトタイプシステムの造船所各社デモ環境の検証
- ・検証結果のアンケート集約

P-57 「LNG 燃料船の艤装設計に関する課題と調査」研究委員会

委員数：田中進委員長ほか22名

LNG 燃料タンクの配置や設計、LNG の燃料タンクへの配管設計等の具体的な設計手順を持ち合わせている造船所は殆ど無いため、本委員会で種々調査を行い、LNG 燃料船を設計する為の前段階として、技術的な注意点や問題点を明らかにする。

回	期日	場所	出席者数
第1回	31.04.22	福岡県中小企業センター	4名
第2回	01.07.25	福岡県中小企業センター	4名
第3回	02.01.02	大島エンジニアリング	4名
第4回	02.02.17	大島エンジニアリング	4名

実施事項：

- ・調査内容の協議、章立ての検討、各社の分担を協議
- ・4章までのドラフトを作成、内容の協議

P-58 「原油タンカーにおける OCIMF 及びメジャーオイル要求に

関する機装設計指針の改訂」研究委員会

委員数：田中進委員長ほか22名

平成14年に制定された標記指針を、最新のOCIMF及びメジャーオイルの要求を織り込み改訂することを目的に活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	01.10.25	ウィリング横浜	6	2

実施事項：

・活動スケジュール、指針ドラフトの目次・概要を協議し、作業分担を決定した。

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究するストラテジー研究委員会だが、今期は6件実施した。そのうち新たに活動を開始した委員会は1件(S-20)、活動を終了した研究委員会は3件(S-15, S-16, S-17)である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-15 海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会

委員数：山崎哲生委員長ほか15名

活動のまとめのシンポジウム「海底・海底下の資源開発と利用は実現できるのか?～あるべき未来と工学の役割～」を令和元年8月26日に開催し、約100名の参加を得た。基調講演2件と講演4件を実施した。最終報告書においては、日本の排他的経済水域(EEZ)と大陸棚およびその周辺海域に保有する海底・海底下資源の開発・利用を促進し、新たな海洋産業を育成するとともに、世界の海洋資源開発市場への参入を図るために必要な方策について、「海底石油・天然ガス」、「海底鉱物資源」、「メタンハイドレート」、「二酸化炭素の回収・貯留(CCS)」の4つの区分に分けて提案した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
・第5回	31.04.24	東京大学本郷キャンパス	10名	1件
・第6回	01.07.30	東京大学本郷キャンパス	5名	1件
・第7回	01.09.10	東京大学本郷キャンパス	7名	1件

実施事項：

- ・シンポジウムの準備とまとめ
- ・活動報告書案審議
- ・研究委員会の今後に関する議論

S-16 次世代海洋食料生産システム研究委員会

委員数：北澤大輔委員長ほか9名

海外の養殖戦略のレビューに基づき、今後の水産物需要の増加に対応するため、沖合養殖、陸上養殖なども含めた海洋食料のプラダクトミックスの検討を行った。また、養殖生産増加のボトルネックとなる配合飼料の確保において、深層水の利用による基礎生産の増大が重要になると予測されることから、深層水利用関連文献のレビューを行った。最後に、自動給餌用のプラットフォームや深層水利用システムなど、船舶海洋工学分野で貢献できる技術課題を抽出した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第3回	01.05.21	東京大学生産技術研究所	8名	2件
第4回	01.11.20	東京大学生産技術研究所	9名	3件

実施事項：

- ・沖合養殖、陸上養殖なども含めた海洋食料のプラダクトミックスの検討
- ・深層水利用関連文献のレビュー
- ・船舶海洋工学分野で貢献できる技術課題の抽出

S-17 システムオブシステムズ技術の船舶海洋工学分野への活用検討委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか9名

S-18 AIS等の船舶動静ビッグデータの物流・海運・造船分野における活用に関する検討委員会

委員数：柴崎隆一委員長ほか25名

全3回の研究会を開催し、研究者委員による研究発表や今後の進め方に関する議論を行うとともに、実務家委員に対して利用ニーズの調査を行った。また秋季講演会にてOSを開催し中間成果の公表を行った。さらに国際セミナーを開催し、対象分野の国際動向を調査した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	01.07.28	東京大学本郷キャンパス	31名	2件
第2回	01.11.21	姫路西はりま地場産センター	36名	4件
第3回	01.12.18	東京大学本郷キャンパス	56名	7件

実施事項：

- ・船舶動静ビッグデータの活用に関する研究成果の報告
- ・研究ニーズ調査、国際動向の調査
- ・競争的資金への応募
- ・秋季講演会オーガナイズドセッションの開催
- ・国際セミナー(01.12.18)の開催

S-19 船舶海洋分野への人工知能(AI)の導入可能性の調査と評価ストラテジー研究委員会

委員数：影本浩委員長ほか17名

船舶海洋分野へのAI導入を念頭に、関連情報の調査、関連既存データの調査、無人造船所の可能性の調査・検討などを行うと共に、AI導入効果の定量的評価法についての勉強などの活動を行った。

回	期日	場所	出席者数
第3回	31.04.02	インターネット会議	15名
第4回	01.06.13	インターネット会議	16名
第5回	01.09.13	インターネット会議	13名
第6回	01.12.10	インターネット会議	13名

実施事項：

- ・メディアやインターネットに掲載されたAI関連情報の調査
- ・AIの機械学習に利用できそうな既存データの調査
- ・造船所の各建造ステージへのAI導入可能性の調査・検討
- ・AI導入効果の定量的評価法の勉強
- ・AIの最新理論の勉強、海外動向調査

S-20 造船業におけるデジタルトランスフォーメーションの検討委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか13名

日本の造船業のデジタルトランスフォーメーション(DX)に向けて検討するためのシナリオの作成を目的としている。DXは設計思想を基にした3D CADデータを利活用して工程をデジタル化して見える化を行い、どのように工程管理を実施するかである。造船業は他の大量生産型の製造業とは異なり個別生産であることから、どの工程のデジタル化が実施可能であり、費用対効果がどの程度なのか明らかではない。本年度は活動方針を定めた。

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである：推進・運動性能研究会、船体構造研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進・運動性能研究会

会員：木原一會長ほか278名

船舶・海洋建造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第13回	01.06.27-28	神戸大総合学術交流棟	48名	11件

第14回 01.10.31-11.1 九大西新プラザ 40名 11件
 第15回 02.03.05-6 新型コロナウイルスのため中止
 実施事項：

- ・JTTC講演
- ・一般研究発表と討議

船体構造研究会

船体構造分野の研究企画に関する意見交換を行い、構造系3研究会の情報共有により、学会内活動の有効化・活性化を図った。なお、本研究会は関係する三支部の構造研究会より構成されるため、各研究会のメール審議を基本とした。

回	期日	場所	出席者数
第1回	01.07.09-10	メール審議	4名
第2回	01.10.05-20	メール審議	4名
第3回	02.02.05-20	メール審議	4名

三支部の構造研究会活動は支部活動に記す。

材料・溶接研究会

会員：川畑友弥会長ほか24名

船体構造材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換及び討議を行った。また、構造系四研究会合同交流会において本研究会から1件の講演を提供した。実施詳細を以下に記す。FSプロジェクト設置に関する議論を深めた。3月に予定していた溶接学会溶接構造研究委員会との合同委員会は感染症拡大防止の観点で中止とした。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第42回	01.06.28	東京大学工学部3号館	22名	2件
第43回	01.10.04	東京大学工学部3号館	17名	2件
第44回	31.03.13	東京大学山上会館	18名	2件

建造革新研究会

会員：青山和浩会長ほか42名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	01.06.07	函館海洋研究センター	46名	7件
WG1:				
第1回	01.06.07	函館海洋研究センター	16名	6件
第2回	01.09.19-20	JMU津	12名	7件
第3回	01.12.05-6	大島造船	13名	7件
WG2:				
第1回	01.06.07	函館海洋研究センター	16名	6件
第2回	01.09.09-10	川重神戸	10名	7件
第3回	01.12.05-6	NK	15名	8件
WG3:				
第1回	01.06.07	函館海洋研究センター	16名	6件
第2回	01.09.12-13	三菱長崎	16名	4件
第3回	01.12.12-13	JMU有明	11名	4件

実施事項：

- ・効率的な精度モニタリング・評価技術に関する研究 (WG1)
- ・品質管理に関する研究 (WG2)
- ・省人化に関する研究 (WG3)

造船設計・生産技術研究会

会員：篠田岳思会長ほか4部会合わせて89名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的として活動を展開した。

造船設計部会：田中進部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第130回	01.09.27	福岡県中小企業振興センター	23人	5件

第131回 02.02.27-28 今治造船 19人 6件
 実施事項

- ・P57,58の審議
- ・幹事会報告、会計報告、情報交換
- ・第14回シンポジウム報告
- ・第15回シンポジウムテーマ選定

船体機装部会：篠田岳思部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第42回	01.07.04-5	JMU舞鶴	16名	4件
第43回	01.11.18-19	サノヤス造船	14名	4件

実施事項

- ・改善事例、トラブル事例、災害事例、環境改善等の報告

機関機装部会：井上順広部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第21回	01.10.31-11.1	JMU呉	20名	8件

実施事項

- ・機関部関係組織（設計部機装設計グループおよび造船部機装グループ）の現状紹介・意見交換
- ・各社からのアンケートの審議

電気機装部会：金子仁部会長

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第19回	01.12.05-6	JMU津	17名	9件

実施事項

- ・電気機装、新技術、品質管理、規則・基準についてのアンケート調査報告と審議
- ・最新技術動向に関する講演

海洋工学研究会

会員：井上俊司会長ほか105名

海上および海中の海洋構造物、海洋エネルギー利用などの海洋工学に関する研究を促進・支援するために、研究会の開催、若手研究者の育成を目的とした海外派遣などを以下のとおり実施した。（海洋環境研究会と合同開催）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第43回	01.08.09	リファルス小倉魚町センタービル	16名	4件
第44回	01.12.13	東京大学本郷キャンパス	25名	6件

実施事項：

- ・北九州市沖・浮体式洋上風力発電システム見学会の実施
- ・構造部門の研究会を2回開催し、海洋構造物の構造関連研究の情報交換を行った。
- ・若手海外派遣調査事業として、長谷川賢太氏をOCEANS2019（米国、シアトル）へ派遣した。

海洋環境研究会

会員：村井基彦会長ほか79名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため、海洋環境研究会を下記の通り開催した。（海洋工学研究会と合同開催）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第43回	01.08.09	リファルス小倉魚町センタービル	16名	4件
第44回	01.12.13	東京大学本郷キャンパス	25名	6件

実施事項：

- ・北九州市沖・浮体式洋上風力発電システム見学会の実施
- ・East Asian Waters Ocean Marine Environmental Network (EAWOMEN2 2019)会議を開催（1.10.27-29、大阪府大）
- ・海洋環境研究委員会設置20周年ミニシンポジウムを第44回委員会内で実施
- ・3月開催で準備をしていた第28回海洋工学シンポジウムの開催を次年度に延期することを決定した。

情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか52名
造船および海事産業の情報技術に関する調査研究とニーズや技術課題の発掘を目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第42回	01.05.21	JMU 呉	32名	5件
第43回	01.09.03	九州大学	28名	5件
第44回	02.01.14	大島造船所	32名	4件

実施事項：

- ・機関紙「すうちせいぎよ」の発行
- ・情報技術（業界、他業界）に関する話題の提供と討議

【5】国際学術協力等

1. 日韓ジョイントセッション

大韓造船学会(SNAK)と共同で開催して8回目となる日韓ジョイントセッションが、韓国慶州での定期講演会の一部として、令和元年10月24日午後「実海域からのビッグデータ」をテーマとして行われ、ここに橋本副会長、梅田国際理事と3名の講演者を派遣した。日韓3名ずつの講演が行われ活発な討議が行われた。

2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

令和2年9月27-30日にロシア・サンクトペテルブルグで開催の第9回PAAMES/AMEC会議にむけて、実行委員会と情報交換を行うとともに、当学会からの論文投稿促進のための広報を行った。

3. World Maritime Technology Congress

令和3年4月27-29日にコペンハーゲンで開催予定のWMT Congress (学会代表会議) およびWorld Maritime Technology Conference (WMTTC)にむけて、実行委員会と情報交換を行った。

4. RINA IMO Group

令和2年3月2-6日のIMO SSE小委員会へのRINAからの生存艇規制に関する提出文書案について、RINAからの意見照会を受け、編集上の提言を行った。

5. 国際対応委員会

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

委員数：宇都正太郎委員長ほか36名

ITTC (国際試験水槽会議) への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第41回	01.06.27	神戸大学築江キャンパス	18名	12件
第42回	01.10.31	九州大学西新プラザ	13名	9件
第43回	02.03.05	メール審議		12件

実施事項：

- ・第29期ITTC各委員会の進捗状況等に関する情報交換
- ・オーストラリアAMCとのTV会議による情報交換

(2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか20名

ISSC (国際船舶および海洋構造物会議) への対応および船体構造に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第26回	01.06.04	長崎県勤労福祉会館	15名	14件

実施事項：

- ・ISSC2021理事会・委員会への参加と情報交換

・国内開催のISSC2021委員会中間会合の支援

(3) PRADS 2019 実行委員会

委員数：岡田哲男委員長ほか15名

PRADS 2019を令和元年9月に横浜で開催するため、下記の実行委員会を開催して準備状況やプログラム案の審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第4回	01.06.05	長崎県勤労福祉会館	出席者13名

【6】シンポジウム等の開催

1. PRADS 2019

1977年東京開催の第1回から数えて第14回となる国際会議、The 14th International Symposium on Practical Design of Ships and Other Floating Structures (PRADS2019)を開催した。3件の基調講演、165件の一般講演が行われ、船舶海洋工学における世界の最新の研究開発の成果が発表・討論された。

期日：令和元年9月22日～26日

場所：パシフィコ横浜(横浜市)

参加人数：286名、内外国人193名

2. World NAOE Forum 2019

第8回目となる世界船舶海洋工学フォーラムは、排出CO₂削減に対する関心が高まっていることを背景に、海事クラスタとしてこの問題に貢献するために「海洋再生可能エネルギーに関する最近の状況と将来課題」Recent Activities and Challenges in Ocean Renewable Energyをテーマとして開催した。海外から2名の講師を招へいし、1件の基調講演、9件の海洋再生可能エネルギーに関わる講演、およびパネルディスカッションを行った。

期日：令和元年12月10日

場所：アクロス福岡 (福岡市中央区)

参加人数：115名、内外国人8名、学生22名、非会員23名

【7】研究者・技術者の海外共同研究促進事業

研究活動のグローバルな活性化と国際的な人材育成の促進を目的に、令和元年度は海外と日本の若手研究者(30歳代)間の、以下の共同研究5件を実施した。

- 1) 多方向不規則波浪場で出現する異常波浪(Freak Wave)の発生・達消滅機構解明とその波浪衝撃荷重の時空間分布推定法の開発 (広島大学-英国)
- 2) 二軸圧縮荷重および溶接残留応力を考慮した防撓パネルの最終強度簡易算式に関する研究 (広島大学-トルコ)
- 3) 流れに起因する浮体構造物運動のCFD評価と実験による検証 (東京大学-ブラジル)
- 4) 浮体式洋上風車の非線形不規則波における流体力学的応答と構造応答特性 (九州大学-中国)
- 5) 機械学習を用いた溶接熱源形状の同定 (海上技術安全研究所-ブラジル)

1)は2年計画の研究であり、令和2年度も継続する。2)は令和元年度の単年研究である。令和元年度は上記のほか、前年度から継続の3件も遂行中であり、合計で5件の研究テーマが実施された。また令和2年度の海外共同研究には、新たに5件の応募があり、審査を経て3件が採択された。

【8】後援および協賛

関連学協会の講演会・シンポジウム等に83件の協賛と11件の後援を行った。また日本学術会議が主催する講演会等を2件共催した。

【9】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で、海事関連の最新テーマに関するワークショップを1回開催した(第2回として計画したワークショップは新型コロナウイルスのため開催を延期)。また船の構造に係わる技術交流、研究活動のため構造研究会を実施した。

(1) 東部支部ワークショップ

「自律化船の実現に向けて」

期日：令和元年12月13日(金)

場所：東京大学生産技術研究所S棟プレゼンルーム

参加人数：55名(内、非会員16名)

講演数：5件、懇親会参加者：22名

(2) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第51回	01.05.21	JMU本社	24名	4件
第52回	01.10.09	日本海事協会	33名	4件
第53回	02.01.15	横浜国立大学	27名	4件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

IMOによる有機スズ化合物を含有する船底防汚塗料を禁止するAFS条約の締結、新造船でEEDIの評価を義務付けるMARPOL条約付属書VIの改正等、船底塗料を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。近年の船底防汚塗料に関わる国際規制の状況ならびに関連する塗料技術や解析技術の最新動向を会員に紹介するために、塗料メーカーから講師を招き講演会を企画した。

期日：令和2年1月22日

場所：神戸クリスタルタワー、出席者：46名

題目：最新船底防汚塗料の技術動向について

三重野 紘央 氏 中国塗料株式会社

(2) 関西支部シンポジウム

・第1回シンポジウム(学生研究発表会)

海事関係学生に研究成果の発表と討論の場を提供し、今後の研究の発展と研究意欲の向上をはかるため、学生研究発表会を実施した。この発表会では、さらなる学生の研究意欲向上につなげるため、優秀な発表を表彰した。

期日：令和元年11月30日

場所：大阪産業創造館 出席者：73名

ポスター：12件 支部長賞(奨励)授与3件

・第2回シンポジウム(KFR 共催)

自動運航船について、自動車業界の最先端の研究の紹介や、船舶での研究事例や課題などについて説明を行い、最後にディスカッションを実施した。

期日：令和2年1月24日

場所：I-site なんば、出席者：80名

題目：自動運航技術の最前線

講演7件およびパネルディスカッション

(3) KFR (関西船舶海洋流体力学研究会)

船舶および海洋に関連する流体力学の幅広い学術的知識を深めるとともに、それらの科学技術がどのように産業に活用されているかについての見識を深めることを目的として、例会を開催した。

第345回例会

期日：令和元年7月16日

場所：I-site なんば 出席者：42名

題目：新しい水槽試験技術

第346回例会

期日：令和元年10月18日

場所：大阪大学理工学図書館ホール 出席者：50名

題目：船舶粘性流体力学研究的の俯瞰

一境界層理論研究発展の歴史とその後一

第347回例会

期日：令和2年1月24日

場所：I-site なんば

出席者：80名

題目：自動運航技術の最前線

第348回例会(新型コロナウイルスのため開催を中止)

開催予定日：令和2年3月19日

場所：I-site なんば

題目：耐航性能計算を見つめなおす

(4) KSSG(関西船体構造研究会)

関西支部に所属する研究者・技術者間で、船舶および海洋構造物の構造に関わる、荷重、強度、設計、建造、解析技術などについての情報交換、話題提供、調査・研究成果の発表/討論のための研究会(3回)を実施した。特に若手技術者育成に重きを置いた内容とした。

第122回

期日：令和元年7月10日

場所：新大阪丸ビル本館 出席者：25名

第123回

期日：令和元年10月4日

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：17名

第124回(新型コロナウイルスのため開催を中止)

開催予定期日：令和2年3月13日

3. 西部支部

(1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者
第43回	1.5.28	パピヨン24	30名
第44回	1.9.18	ホテルオークラ丸亀	36名
第45回	2.1.28	呉森沢ホテル	31名

(2) 西部支部性能研究会

Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering, 2019

期日：令和元年11月14日、15日

場所：広島大学中央図書館ライブラリーホール

参加人数：48名、講演：25件

船舶海洋分野の学生や企業の若手研究者・技術者に気軽に参加できる国際会議の場を提供するとともに当該分野の環境関連技術に関する情報交換を行った。

(3) 西部支部シンポジウム

「船舶の環境対策」

期日：令和元年10月21日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：45名、講演：4件

バラスト水管理条約が発効し、SOx規制も2020年から始まる状況において、船舶の環境対策が喫緊の課題となっている。またCO₂削減対策のためのLNG燃料船や燃料電池船についても取り組みを加速する必要がある。そこで、船舶の環境対策に関する最新の状況やIMOの協議状況についてあらためて総括するとともに、今後の方向の展望を見据えるためにシンポジウムを開催した。

(4) 西部支部特別講演会

「5G時代に向けたドコモの取り組み」

期日：令和2年1月16日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：27名、講演：1件

次世代モバイルワイヤレス通信5Gが2020年より運用開始

となり、これにより人々の生活を大きく変える可能性があるが、ビジネスの世界でも、この技術を取り込み更なる発展が期待さ

れている。講演では 5G の概要、高速通信を利用したビジネスの事例、今後の発展の可能性が製造業での例も交え紹介された。

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター	01.10.23	第42回運営委員会	6
1. 能力開発センター運営委員会	01.10.23	第31回WG戦略会議	14
委員数：宇都正太郎委員長ほか5名	01.12.27	第43回運営委員会	8
能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会、CPD委員会、大学等教育支援委員会の活動を推進した。	01.12.27	第32回WG戦略会議	17
	第44回運営委員会、第33回WG戦略会議は新型コロナウイルスのため中止した。		
2. 技術者資格支援委員会	(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催		
委員数：上野道雄委員長ほか1名	海洋教育フォーラムは海事関係の人材のすそ野を広げるために、「海洋と我々の係わり」を中高生及び若年層に理解してもらうことを目的として、全国で展開している。中高生及び若年層を対象とするのはもちろんであるが、教員及び一般市民を介して中高生及び若年層に伝えてもらうために、広く一般の人にも参加願っている。総計10回の海洋教育フォーラムを全国各地で開催した。また、平成30年度の海洋教育推進委員会の活動報告会として、海洋教育セミナーを1回開催した。		
技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム、浮体の力学、計測・制御、材料・構造）について4名の講師による講習を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 第14回東部支部海洋教育セミナー 		
期日：令和元年6月20、21日	期日：令和1年7月26日		
場所：学会会議室	場所：東京海洋大学 品川キャンパス		
後援：日本マリンエンジニアリング学会、日本造船工業会	プログラム：講演12件 参加者数：22名		
参加人数：8名	<ul style="list-style-type: none"> 第55回海洋教育フォーラム 		
	「海の研究最前線～海の未来、担うのは秋田の私たち～」		
3. CPD委員会	期日：令和1年9月7日		
委員数：新宅英司委員長ほか2名	場所：秋田拠点センターアルヴェ		
継続的能力開発（CPD）ポイントの発行と蓄積システムの運用を行った。	プログラム：講演4件 参加者数：230名		
4. 大学等教育支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> 第56回海洋教育フォーラム 		
委員数：馬場信弘委員長ほか4名	「最新の船舶海洋技術」		
日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に協力し、船舶海洋系大学の教育プログラムの、JABEE 認定に向けた支援を行った。	期日：令和1年10月12・13日		
	場所：九州大学伊都キャンパス		
	プログラム：講演4件 参加者数：22名		
【2】船舶海洋工学シリーズの英訳出版	<ul style="list-style-type: none"> 第57回海洋教育フォーラム 		
海外の造船技術者育成に資する目的で「船舶海洋工学シリーズNo. 2, 3」の英語版「Resistance and Propulsion」, 「Ship Maneuverability」を刊行した。	「『ちきゅう』のことをもっと知りたい!」		
	期日：令和1年11月9日		
	場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ		
	プログラム：講演4件 参加者数：106名		
【3】造船技術者社会人教育	<ul style="list-style-type: none"> 第58回海洋教育フォーラム 		
若手造船技術者の実務に役立つ実践的な教育のため、日本造船工業会、日本中小型造船工業会と共催し、造船技術者社会人教育（第19回）を実施した。参加者は造船会社、船級協会を中心に233名であった。	「海辺の流れと水災害から命を守る」		
	期日：令和2年2月22日		
	場所：前橋市民文化会館（昌賢学園まえばしホール）		
	プログラム：講演2件 参加者数：11名		
【4】海洋教育推進活動	<ul style="list-style-type: none"> 第59回海洋教育フォーラム 		
1. 海洋教育推進委員会	「研究者と語ろう 船の研究最前線－未来の船はどうなる？」		
委員数：小林正典委員長ほか50名	期日：令和1年11月16日		
(1) 委員会の開催	場所：大阪大学中之島センター		
運営委員会、WG 戦略会議を下記のとおり開催し、以下について審議した。	プログラム：講演3件 参加者数：129名		
・海洋教育推進委員会の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 第60回海洋教育フォーラム 		
・海洋教育フォーラム、海洋教育セミナーの計画・実施	「宇宙と深海から眺めた海」		
期日	委員会名	出席者数	期日：令和1年11月23日
31.04.19	第40回運営委員会	6	場所：日本大学理工学部船橋キャンパス
31.04.19	第29回WG戦略会議	16	プログラム：講演2件 参加者数：50名
01.07.26	第41回運営委員会	6	<ul style="list-style-type: none"> 第61回海洋教育フォーラム
01.07.26	第30回WG戦略会議	14	

「海から見た西日本豪雨-災害からの復興-」

期日：令和1年12月7日

場所：JMS アステールプラザ

プログラム：講演3件 参加者数：40名

・ 第62回海洋教育フォーラム

「海のいろいろ-海洋調査に関わる技術&若手研究者による研究活動ポスターセッション」

期日：令和1年12月14日

場所：東京海洋大学越中島キャンパス

プログラム：講演2件 参加者数：110名

・ 第63回海洋教育フォーラム

「注目を集める長崎の海洋・水産・造船」

期日：令和1年12月14日

場所：長崎大学文教キャンパス

プログラム：講演4件 参加者数：99名

・ 第64回海洋教育フォーラム

「海のことをもっと知ろう!~北三陸の海における未利用資源の探求~パート2」

期日：令和1年12月19日

場所：久慈市文化会館

プログラム：講演4件 参加者数：240名

・ 第65回海洋教育フォーラム

「海の中から見た船!!」

期日：令和2年3月7日（新型コロナウイルスで中止）

場所：記念艦三笠講堂

プログラム：講演4件

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・ 海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・ 海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・ 国内の海事関連団体・企業に赴き、海洋教育に関連する各機関の取り組みについて情報収集を実施した (WG4)。
令和元年5月 水産加工施設等訪問、見学（静岡県焼津市）
令和元年7月 宮城県仙台第三高等学校訪問
令和2年1月 小学校教員向け海洋教育ツアーオブザーバー参加（内航フェリー見学、渦潮乗船体験、造船所見学）（愛媛県松山市）
- ・ 船の科学館主催の夏休み体験活動「海の学び舎・わくわくキッズパーク」の中で「どうして船は浮くのかな？いろいろな形の船を作ってみよう！」(R1.8.15)、バンドー神戸青少年科学館で、作って学ぶ、地球環境と海の生態系-地球を救う海のはたらき-(R1.9.28)、東京大学柏キャンパスの一般公開の中で、「水の力で進む船を作ろう！」と題した工作教

室(R1.10.25-26)、東京海洋大学で実施された「オープンキャンパス（後期）」の中で、同大の錨実験水槽を公開し、ミニ講義および体験実験(R1.11.10)を実施した (WG5)。

- ・ 海洋型自然体験学習として、東京海洋大学品川キャンパス周辺運河にて、地元住民および子どもを対象に、10人乗りカヌー2隻を参加者で漕ぐツーリングを実施した。海洋大港を発着とし、天王洲アイルの第4台場跡の石垣や天王洲運河沿岸の水上レストランの見学、および芝浦水再生センター周辺水域の水質観察等をガイドしながら行った。(WG8)。

2. 青少年啓発活動

(1) 夏休みおもしろ船教室2019（広島大学）

～自然エネルギーを利用したエコロジー船の科学～

期日：令和1年8月3日

場所：広島大学工学部E6棟 参加者数：30名

プログラム：自然エネルギーで動くエコロジー船の不思議の体験学習、水ジェット推進船の製作とスピードレース

(2) その他啓発活動

- ・ 海技中学校練習船海技丸体験航海と施設公開(1.7.21,23)
- ・ '19水中ロボットコンベンションin JAMSTEC(1.8.23-25)
- ・ 水中ロボットフェスティバル2019 in 北九州(1.10.19-20)

3. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で、性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し、若手技術者の専門教育の充実、および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：令和元年9月6～7日

場所：九州大学伊都キャンパス

参加者数：29名

プログラム：基礎講義3件、特別講義1件、特別企画

(2) 構造強度・材料溶接分野

(新型コロナウイルスのため中止)

4. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系8大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会、講習会、出前講義、地域密着型のイベント等を開催し、多数の参加者を得た。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	令和1年11月24日 東京夢の島マリーナ	50
東京海洋大学	令和1年7月15日 東京海洋大学越中島	80
	令和1年7月26日 東京海洋大学越中島	50
	令和1年9月21日 小名木川クローバー橋	65
横浜国立大学	令和1年7月15日 横浜国立大学キャンパス	62
	令和1年8月24日 横浜国立大学キャンパス	75
大阪大学	令和2年1月26日 ニチイ学館ポートアイランド センター他(第12回サイエンスフェア in 兵庫にて実施)	1200 (フェア参加者)
大阪府立大学	令和1年6月18日 大阪府立泉陽高等学校	32
	令和1年7月13日 開智高等学校	37
	令和1年8月2日 大阪狭山市立公民館	11
	令和1年8月17日 堺名村造船所	20
	令和1年9月25日 北千里高等学校	63
広島大学	令和1年12月18日 今治工業高等学校	38
九州大学	令和1年8月24日 九州大学伊都キャンパス	38
	令和1年8月24日 九州大学伊都キャンパス	500
長崎総合科学大学	平成31年4月19~21日 長崎水辺の森公園, 出島ワーフ	170
	令和1年7月27日 長崎総合科学大学	22
	令和1年8月2日 長崎総合科学大学	40
	令和1年8月19日 大村市商工会議所	30
	令和1年8月20日 長崎市伊王島馬込漁港	20
	令和1年8月29日 長崎県佐世保市	30
	令和1年9月14日 長崎県北松浦郡小値賀町	7
	令和1年8月20日 愛知県立三谷水産高等学校	20
	令和1年11月30日 九州電力長崎電機ビル	50
	令和1年12月17日 長崎総合科学大学	107

【5】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し、また学会活動を広報・周知するため、学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：西村信一委員長ほか58名

・学会誌発行の全体計画および調整のため、下記の編集幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第57回	31.04.09	博多(リファレンス駅東)	9
第58回	01.08.09	東京(学会会議室)	11
第59回	01.12.12	大阪(新大阪丸ビル)	7
第60回	02.03.25	ウェブ会議	8

・特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・各支部編集委員会の分担により、学会誌第84号~89号を編

集した。

・研究企画委員会との連携で、解説記事「海洋エネルギー発電装置の開発と環境」の連載を第84号以降継続した。

・編集幹事会および編集委員会において、学会誌の電子化による利便性向上について検討を行った。また電子化に関する会員アンケート調査を準備した。

(2) 学会誌刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第84号から89号までの6冊を表2-2のとおり刊行し会員、賛助会員に配布したほか、書店等に販売した。

表2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第84号(R1年5月)	77	5,100
KANRIN 第85号(R1年7月)	130	5,100
KANRIN 第86号(R1年9月)	49	5,100
KANRIN 第87号(R1年11月)	43	5,100
KANRIN 第88号(R2年1月)	69	5,100
KANRIN 第89号(R2年3月)	64	5,100
計	432	30,600

【6】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上のための会員サイトへのコンテンツ追加、電子メールのセキュリティ向上のためスパム対策強化、等を行うとともに、ホームページ活性化のために、フォトギャラリーにて、第5回フォトコンテスト「運ぶ船、働く船」を開催した。

(1) 情報管理委員会

委員数：中野豊久委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主として学会ホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	01.06.12	学会会議室	9
第2回	01.09.11	学会会議室	7
第3回	01.12.18	学会会議室	8
第4回	02.02.05	サノヤス造船	6

(2) 主な実施事項

・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用

・メールニュースNo.325~351の発行

・会員サイトのコンテンツの追加・充実

・第5回フォトコンテストおよび選考委員会(01.12.18)の開催

【7】広報活動

各種イベントにおけるパンフレットの配布等、学会活動を広く周知し入会者の増加を図る目的で広報宣伝活動を継続した。

また学会紹介パンフレットの表紙・内容の更新を行ない、改訂版を発行した。

【8】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの第29回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2018を選定した。

令和元年5月13日、応募作品の発表会と選考会が実施され、選考委員会において表2-3に示す作品が各賞に選定された。令和元年7月12日に開催された海事三学会合同表彰式(海運クラブ)において、受賞作品の表彰を行った。

表 2-3 シップ・オブ・ザ・イヤー受賞作品

シップ・オブ・ザ・イヤー2018	BELUGA ACE
技術特別賞	CASTILLO DE MERIDA
大型客船部門賞	さんふらわあ さつま/きりしま
小型客船部門賞	うみのこ
大型貨物船部門賞	COOL EXPRESS
漁船・作業船部門賞	げんかい
海洋構造物・機器部門賞	NMRI 航行型 AUV4 号機

【9】ふね遺産の認定事業

第3回ふね遺産公募に応募・推薦のあった15件から、ふね遺産認定実行委員会にて選定した候補案を審査委員会で審査の結果、表2-4に示す第3回認定案件7件を決定した。令和元年7月19日に明治記念館に於いて認定式を開催し、認定案件の所有者・関係者に認定書および認定プレート（非現存案件については認定書）を授与した。また第4回ふね遺産の公募を実施し、認定候補案件16件から候補を選考した。

表 2-4 第3回ふね遺産認定

認定案件	所在地・所有者
雲鷹丸	東京海洋大学
明治丸	東京海洋大学
幕末建造木造帆装軍艦「鳳凰丸」	横須賀市
幕末建造スクーター型木造帆船「ヘダ」	沼津市
第十とよた丸	川崎汽船（株）
ボール進水設備	三菱重工業（株） 下関造船所
長崎小菅修船場	三菱重工業（株） 長崎造船所

表 2-5 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本海事協会賞 論文名：AISデータに基づく実運航船舶の波浪荷重推定 —最大荷重に対する操船影響の評価法— 受賞者：岡 正義（海技研）、高見朋希（同）、馬 沖（同）</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本海事協会賞 論文名：Performance prediction of full-scale ship and analysis by means of on-board monitoring. Part 2: Validation of full-scale performance predictions in actual seas 受賞者：折原秀夫（JMU）、辻本 勝（海技研）</p>

表 2-6 船舶海洋技術賞

受賞者：井上 義行（横浜国立大学名誉教授）

表 2-7 奨励賞（乾賞）

<p>論文名：個別要素法および有限要素法による連成解析を適用した鉱石圧推定手法に関する研究 受賞者：藤 公博（九州大学）</p>
--

【10】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第33条から36条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

- 1) 令和元年度定時総会において、表2-5のとおり日本船舶海洋工学会賞（論文賞）を授与した。また副賞として日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
- 2) 令和元年度定時総会において、表2-6のとおり第43回船舶海洋技術賞が井上義行君に授与された。
- 3) 令和元年度定時総会において、表2-7のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）を授与した。
- 4) 令和元年度定時総会において、表2-8のとおり日本船舶海洋工学会賞（著書等）を授与した。
- 5) 令和元年度定時総会において、表2-9のとおり日本船舶海洋工学会社会貢献賞を授与した。
- 6) 商船高等専門学校等の卒業生の中から成績優秀な者に表2-10のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 7) 船舶海洋系大学および大学院（修士課程）の卒業生の中から成績優秀な者に表2-11のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 8) 工業高等学校の卒業生の中から成績優秀な者に表2-12のとおり、奨学褒賞を授与した。

表 2-8 著書・開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 著書：「水波問題の解法 —2次元線形理論と数値計算—」 受賞者：鈴木 勝雄（防衛大学校名誉教授）</p>
--

表 2-9 社会貢献賞

<p>日本船舶海洋工学会社会貢献賞 題名：「長年にわたる海洋教育・青少年啓発活動への貢献」 受賞者：東京夢の島マリナー（東京都江東区）</p>

表 2-10 奨学褒賞（商船高等専門学校）

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	松岡 理人 赤木 剛
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	倉石 宗 丸木 勘助
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	北村 大地 寺林 来人
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	柳田 宗廣 堀口 駿
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	松本 華澄 内田 陽良

表 2-11 奨学褒賞 (大学, 大学校)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	小島 駿 奥山 理奈 土橋 直己
横浜国立大学 理工学部建築都市・環境系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	照井 潮太 船田 純希
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運システム工学専攻	新徳 昇平 市田 圭希 小野 航生 石井 幹久
神戸大学 海事科学部グローバル輸送科学科 海事科学部海洋安全システム科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	大町 京平 西 駿太郎 牛丸 脩平 川口 哲
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	藤澤 卓彌 馬詰 佳亮
大阪府立大学工学域機械系学類 海洋システム工学課程 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	竹川 源太郎 前川 真奈海
東海大学海洋学部 航海工学科海洋機械工学専攻 大学院海洋学研究科海洋学専攻	望月 悠佑 宇都宮 洪志
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	山村 巽 鈴木 孝典
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	田門 岳大 岡崎 翔太 平山 祐
長崎総合科学大学 工学部工学科船舶工学コース 大学院工学研究科生産技術学専攻	板井 竜駒 高谷 康平
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	中村 浩己 百田 将
海技大学校 海上技術コース (航海専修) 海上技術コース (機関専修)	中村 優太 大澤 玲音

表 2-12 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関工科高等学校	内田 大喜
高知県立須崎総合高等学校	小原 善治
長崎県立長崎工業高等学校	濱崎 楓太
愛媛県立今治工業高等学校	日野 貴之

【11】支部活動

1. 東部支部

(1) 若手研修・意見交換会

海事産業に関わる若手世代の親睦を深め、海事産業にまつわる情報共有や問題意識の啓発を図るため、トヨタ自動車(株)およびトヨタ海運(株)の協力の元、名港センター(トヨタ自動車専用の積み出し港)において若手研修・意見交換会を開催した。研修会では、トヨタ海運が所有されている自動車運搬船の船内および実際の自動車の搭載作業を見学させて頂き、また、名港センター内にある『トヨタ物流道場』と呼ばれる研修施設において、効率的な自動車輸送や乗組員の方々の労働環境改善に向けた取り組みについて説明を受け、意見交換を行った。

期日：令和2年1月28日

場所：トヨタ自動車・名港センター

参加人数：20名

(2) 海事産業へのお誘い

海事産業へ興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象とした海事産業へのお誘いを開催した。参加団体による個別説明会、概要説明パネルの展示を行い、海事産業の魅力を周知することに努めた。

期日：令和元年12月18日

場所：東京海洋大学 越中島キャンパス 八十五周年記念会館

参加人数：24名、参加団体数：16団体

(3) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、支部メールニュース(No.53から57)の発行を行った。

2. 関西支部

(1) 若手技術者研修会

委員数：藤久保会長、幹事3名 会員6名

造船所の若手工作技術者を対象に造船所・メーカー・大学施設を見学し、工作技術への理解と応用力を深める自己研鑽及び啓発の場として、さらに所属組織の垣根を越えた交流を狙い、技術研修会を開催した。

第1回研修会

期日：令和元年6月28日

場所：大阪大学 吹田キャンパス、出席者：17名

第2回研修会

期日：令和元年9月20日

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工工業坂出工場

出席者：17名

第3回研修会

期日：令和元年10月25日

場所：サノヤス造船水島製造所・三井E&S造船玉野事業所

出席者：11名

第4回研修会

期日：令和元年12月12日

場所：キャタピラー・ジャパン明石事業所 出席者：11名

第5回研修会

期日：令和元年12月13日

場所：日本製鉄広畑工場 出席者：8名

第6回研修会

期日：令和2年1月17日

場所：JMU津事業所 出席者：11名

(2) 造船資料保存委員会

委員数：32名

造船技術の発展途上で創り出され活用された資料ならびに用具類の収集・保存、および発展過程の調査を行った。

委員会開催数：2回

学会の歴史と文化活動の発信媒体「デジタル造船資料館」の維持運営のための編集会議：2回

(3) 関西シニア海事研究会

グループ活動やシニア活動を発表して各活動への参加者拡大を図り、その詳細をホームページに記載してより広く伝えた。

総会

期日：令和元年7月20日

場所：神戸クリスタルホール 出席者：39名

(4) 支部長賞

学会賞の対象とならない成果で、船舶及び海洋工学、その他海事一般への継続的な貢献が期待される個人または団体を奨励するために授与した。関西支部会員より自薦または他薦された技術者、教員、学生および団体を対象とした。

・支部長賞(1件)

海上交通システム研究会：海上交通システムに関する技術情報の収集、研究開発課題の探索、会員相互の情報交換、研究成果・知識の普及及び必要な政策提言等の活動

・支部長賞(奨励)(3件)

沖見優衣(大阪府立大学)、Ahmad Adilah(大阪大学)、鈴木寛太郎(大阪大学)

(5) 海事産業説明会

大学生・大学院生を対象に、海事産業について紹介と啓発をするための説明会を開催した。運営は関西地区の学生研究グループであるKFR-jrとKSSG-jrの学生幹事が主体となり、特別講演、参加団体による企業別説明会と座談会を企画実施した。

期日：令和元年11月30日

場所：大阪産業創造館

講師：安藤英幸氏(MTD)、森谷明氏(シッピングデータセンター)、太田垣由夫氏(JMU)

学生参加者：86名 一般参加者：66名 参加団体：25団体

(6) 見学会

日本の近代化に大きな貢献をしたびわ湖疎水で運航されている観光船の乗船見学会を行った。びわ湖疎水建設過程や歴史、その果たした役割などについて、ボランティアガイドより詳細な解説があった。

期日：令和元年11月10日

場所：びわ湖疎水船 大津乗下船場

参加者：24名

(7) 学生・若手会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し、学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

(1) 西部支部若手技術者交流会(ワークショップ)

期日：第1回 令和元年10月4、5日

第2回 令和元年11月15、16日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：22名(若手17名、講師1名、アドバイザー2名、世話人2名)

所属組織の垣根を越えた課題解決を通じて若手技術者間の交流や情報交換を行い、仕事や研究へのモチベーションの醸成を図り、わが国の船舶・海洋工学分野の将来課題について認識を深め、課題解決のマインド作りをするワークショップを開催した。業界理解を深めるための専門家による講義、フレームワークを用いた問題分析の手法等に取り組んだ。

(2) 広報編集委員会

回	期日	場所	出席数
第34回	1.5.13	リファレンス駅東ビル	15名
第35回	1.12.11	リファレンス駅東ビル	15名

このほか随時、電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。

(3) 電子情報委員会

電子メールにより関連課題の審議を行った。

(4) 広報活動など

メールマガジン第83号～第88号を配信した。

III 事務報告

【1】会合

1. 定時総会

令和元年度(第124期)日本船舶海洋工学会定時総会を代議員69名(内書面による議決権行使36名、定足数41名)の出席者のもと下記のとおり開催し、平成30年度(第123期)事業報告(報告事項)、収支決算報告(決議事項)等を審議して可決した。また次期役員を選任した。

期日：令和元年6月3日 13:00～14:00

場所：長崎県勤労福祉会館(長崎市)

議事：

- (1) 平成30年度(第123期)事業報告、決算報告
- (2) 令和元年度(第124期)事業計画、収支予算
- (3) 役員を選任

2. 理事会

令和元年度(第124期)第1回定例理事会

日時：平成31年4月25日(金)14:30～17:30

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事13名、監事2名、事務局1名

主要議事：

(1) 平成30年度事業報告・収支決算報告に関する審議

(2) ふね遺産認定基準に関する審議

(3) 内規の改定

令和元年度(第124期)第2回定例理事会

日時：令和元年6月3日(月)16:15～17:30

場所：長崎県勤労福祉会館 会議室

出席：理事15名、監事3名、事務局1名

主要議事：

(1) 会長(代表理事)、副会長の選定

(2) 業務執行理事の職務に関する審議

令和元年度(第124期)第3回定例理事会

日時：令和元年7月25日(木)14:00～17:30

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事14名、監事2名、事務局1名

主要議事：

(1) 研究委員会設置申請に関する審議

(2) 内規の改定に関する審議

(3) 海外共同研究促進事業に関する審議

令和元年度(第124期)第4回定例理事会

日時：令和元年9月20日(金)14:00～17:00

場所：新大阪丸ビル新館会議室

出席：理事12名，監事3名，事務局1名

主要議事：

- (1) 講演会運営に関する審議
- (2) ふね遺産認定基準改定に関する審議
- (3) 日本財団助成申請に関する審議

令和元年度（第124期）第5回定例理事会

日時：令和元年11月15日（金）14:00～17:00

場所：リファレンス駅東ビル会議室（福岡市）

出席：理事14名，監事3名，事務局1名

主要議事：

- (1) 研究委員会活動に関する審議
- (2) 学会誌の電子化に関する審議
- (3) 産業界との意見交換に関する審議

令和元年度（第124期）第6回定例理事会

日時：令和2年1月31日（金）13:30～17:00

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事12名，監事3名，事務局1名

主要議事：

- (1) 令和2年度事業計画・収支予算案に関する審議
- (2) 内規の改定
- (3) 終身会員の推薦

令和元年度（第124期）第7回定例理事会

日時：令和2年3月19日（木）14:00～16:00

場所：日本船舶海洋工学会会議室およびWeb会議室

出席：理事14名，監事2名，事務局1名

主要議事：

- ・令和2年度（第125期）事業計画・予算に関する審議
- ・名誉会員・功労会員の推薦
- ・学会賞の授賞に関する審議

【2】役員

令和元年度定時総会において以下の理事，監事が選任された。

また令和元年度第2回定例理事会において理事の職務分担を決定した。

代表理事（会長）	三島 慎次郎	理事（編集）	西村 信一
理事（副会長）	宇都 正太郎	理事（庶務）	山本 敦
理事（副会長）	竹田 太樹	理事（学術）	岡田 哲男
理事（副会長）	橋本 州史	理事（財務）	山崎 壽久
理事（研究）	菅 勇人	理事（情報）	中野 豊久
理事（企画）	高木 健	理事（広報）	北村 充
理事（国際）	梅田 直哉	監事	田名部登志彦
理事（企画）	大塚 耕司	監事	河部 香
理事（学術）	古川 芳孝	監事	高井 通雄

【3】会員の異動

1. 会員数推移

令和2年3月31日現在，会員総数は個人会員4,216名，賛助会員140団体，計4,356となった。（表3-1）

2. 名誉会員，功労会員の推薦

令和元年6月3日定時総会にて下記のとおり1名が名誉会員に，9名が功労会員に推薦された。

名誉会員：	吉川 孝男		
功労会員：	梅田 直哉	大塚 耕司	小林 英一
	馬場 信弘	山崎 哲生	後藤 浩二
	山口 悟	岩下 英嗣	青木伊知郎

3. 終身会員の推薦

表3-1 会員数推移

種別	前期末 (31年3月 31日)	当期末 (02年3月 31日)	増員	減員	増減
正会員	4,083	3,992	85	176	-91
（内名誉会員）	(39)	(36)	1	4	-3
（内功労会員）	(60)	(68)	9	1	8
（内終身会員）	(926)	(878)	3	51	-48
（内シニア会員）	(64)	(68)	7	3	4
（内在外会員）	(81)	(77)	0	4	-4
学生会員	223	222	98	99	-1
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1級	9	9	0	0	0
2級	10	9	0	1	-1
3級	104	105	1	0	1
個人	2	2	1	1	0
合計	4,448	4,356	185	277	-92

理事会において下記3名の終身会員への推薦が承認された。

増田 光一 坂井 賢吉 三井 哲夫

【4】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

(1) 論文審査委員会

岡田哲男，川村恭己，新宅英司，安藤英幸，平山明仁，川島英幹，胡長洪

(2) 英文論文集編集委員会

Jason Lavroff, Brendon Anderson, Dev Ranmuthugala, Bjorn Egil Asbjornslett, Stein Ove Erikstad, Malek Pourzanjani, Ye Li, Roger Neill, 岡正義

(3) 学会誌編集委員会

川橋強，恩田尚弘，新井大介，須本祐史，大石浩正，一色昭寛，岡山優，金本真美子，山中象太，石川暁

(4) 講演会企画委員会

古川芳孝，平林紳一郎，新井励，田中義和，後藤浩二

(5) 研究企画委員会，分野研究企画部会

山口弘志

(6) 研究委員会

P-58 原油タンカーにおけるOCIMF及びメジャーオイル要求に関する艀装設計指針の改訂研究委員会：田中進，岸本研一，小西陽一，上田友生，富永晴彦，稲垣秀彦

S-20 造船業におけるデジタルトランスフォーメーションの検討委員会：篠田岳思，濱田邦裕，稗方和夫，満行泰河，土井裕文，笠野和輝，酒井徹，松尾直，鈴木弘道，渡邊薫，佐々木吉通，中川直人，長沼啓介，工藤崇

(7) 海外共同研究促進事業委員会

高木健，菅勇人，梅田直哉，大塚耕司，山本敦

(8) ふね遺産認定実行委員会

山本敦，吉川孝男

(9) 能力開発センター

宇都正太郎

(10) 国際企画委員会

梅田直哉

(11) 海洋教育推進委員会

韓佳琳，大崎健司，澤村淳司，橋爪俊也，江川俊太郎

(12) 広報委員会

北村充

(13) 情報管理委員会

【5】会員名簿の発行

令和元年度版会員名簿を、令和2年2月に発行した。

【6】補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

- | | | |
|-----------------------------|--|-------|
| (1) 科学研究費補助金 | | |
| 研究成果公開促進費（国際情報発信強化） | | |
| 日本学術振興会より | | 380万円 |
| (2) 業界補助金 | | |
| 1) 一般向け講演会活動費 | | |
| 日本造船工業会より | | 150万円 |
| 2) フォーラム・シンポジウム等開催支援金 | | |
| World NAOE Forum（日本海事協会他より） | | 420万円 |
| PRADS 2019（日本海事協会他より） | | 639万円 |
| 3) 講演会開催補助金 | | |
| 姫路観光コンベンションビューローより | | 28万円 |
| (3) 寄付金 | | |
| 当会の諸事業に対する寄付金 | | |
| 日本造船工業会より | | 175万円 |

【7】関連団体との協力

- 1) 日本学術会議
日本学術会議が主催する講演会・シンポジウムを2件共催した。
- 2) 日本工学会
CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。また、事務研究委員会の活動に参画した。
- 3) 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業、技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。
- 4) 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を2回行った。また、合同表彰式、技術者支援事業等で連携を図った。
- 5) 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等を通じ、関連行事の連携を図った。

【8】規則

定例理事会において下記内規の改定を決議した。

- ・日本船舶海洋工学会賞受賞に関する内規
- ・船舶海洋技術賞に関する内規
- ・日本船舶海洋工学会社会貢献賞に関する内規
- ・シンポジウム・講習会に関する内規
- ・シップ・オブ・ザ・イヤーの選考に関する内規
- ・奨学褒賞に関する内規

【9】行政庁への提出

- 1) 令和元年6月28日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・平成30年度（第123期）事業報告等に係わる提出書類
- 2) 令和元年8月23日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・役員変更届
- 3) 令和元年10月25日に内閣府の立入検査を受けた。
 - ・提出書類なし
- 4) 令和2年3月27日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・令和2年度（第125期）事業計画
 - ・令和2年度（第125期）収支予算書

【10】支部会合**1. 東部支部**定時総会

期日：令和元年年5月17日

場所：一般財団法人日本海事協会 東京支部 会議室

出席者：32名

運営委員会

委員数：宇都正太郎支部長ほか18名

第1回（平成31年4月19日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 東部支部定時総会審議事項の確認
- (2) 代議員候補者数の見直しについて

第2回（令和元年7月12日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 令和元年度東部支部定時総会の報告
- (2) 令和元-2年度運営委員の役割分担
- (3) 令和元年度東部支部行事の企画
- (4) 令和2年度春季講演会の開催案

第3回（令和元年9月13日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 東部支部ワークショップの実施案
- (2) 若手研修・意見交換会の実施案
- (3) 「海事産業へのお誘い」の実施案

第4回（令和元年11月8日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 令和2年度事業計画・予算案の作成日程
- (2) 令和元年度中間決算
- (3) 会費未納者（会員資格喪失対象者）への対応

第5回（令和元年1月23日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 令和2年度 東部支部事業計画案・予算案(1次案)
- (2) 令和元年度会員資格喪失対象者（会費未納者）
- (3) 令和元年度終身会員の推薦

第6回（令和元年3月5日）メール審議により開催

主要議事：

- (1) 令和元年度東部支部事業報告・決算報告
- (2) 令和2年度東部支部事業計画案および予算案（2次案）
- (3) 令和2年度東部支部定時総会の開催日程・役割分担
- (4) 令和2年度東部支部行事の企画・運営

2. 関西支部定時総会

期日：令和元年5月17日

場所：三菱重工業神戸造船所

出席者：53名

商議員会

委員数：竹田支部長ほか46名

期日：令和2年1月22日

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：28名

主要議事：

- (1) 令和元年度事業進捗状況
- (2) 令和2年度事業計画案・予算案

(3) 支部長賞候補推薦のお願い

運営委員会

委員数：竹田支部長ほか14名

第1回(平成31年4月12日)

場所：大阪産業創造館 出席者：29名

主要議事：

- (1) 次期運営委員の体制について
- (2) 平成31年度支部定時総会
- (3) 支部長賞授賞審査委員会

第2回(令和元年5月17日)

場所：三菱重工業神戸造船所 出席者：27名

主要議事：

- (1) 役員・委員委嘱・会員異動
- (2) 関西支部定時総会議事進行案
- (3) 見学会

第3回(令和元年6月17日)

場所：I-site なんば 出席者：26名

主要議事：

- (1) 役員・委員委嘱・会員異動
- (2) 第3回デジタル造船資料館編集会議
- (3) 令和元年秋季講演会実行委員会

第4回(令和元年9月6日)

場所：大阪産業創造館 出席者：25名

主要議事：

- (1) 学生研究発表会 2019
- (2) 海事産業説明会 2019

第5回(令和元年11月1日)

場所：I-site なんば 出席者：25名

主要議事：

- (1) 平成31年度中間報告
- (2) 令和2年度事業計画素案・予算素案
- (3) メーリングリストの運用について

第6回(令和元年12月6日)

場所：I-site なんば 出席者：19名

主要議事：

- (1) 新年特別講演会
- (2) 令和元年度中間報告
- (3) 令和2年度第2回予算素案

第7回(令和2年1月22日)

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：24名

主要議事：

- (1) 令和元年度事業進捗状況
- (2) 支部長賞候補推薦の依頼
- (3) 関西支部定時総会

第8回(令和2年3月2日)

メール審議 返信者：11名

主要議事：

- (1) 支部長賞推薦状況
- (2) 2020年度若手技術者研修会
- (3) 学生会員募集パンフレット

会務委員会

委員数：勝井幹事ほか17名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回(平成31年4月12日) 出席者：14名

第2回(令和元年5月17日) 出席者：11名

第3回(令和元年6月17日) 出席者：11名

第4回(令和元年9月6日) 出席者：14名

第5回(令和元年11月1日) 出席者：13名

第6回(令和元年12月6日) 出席者：7名

第7回(令和2年1月22日) 出席者：13名

第8回(令和2年2月27日) 新型コロナウイルスのため開催中止

授賞審査委員会

委員数：有馬委員長ほか6名

第1回(平成31年4月12日)

場所：大阪産業創造館 出席者：6名

3. 西部支部

定時総会

期日：令和元年5月17日

場所：リファレンス博多近代ビル

議事：

- (1) 支部役員の承認
- (2) 第14期(平成30年度)事業報告および決算報告
- (3) 第15期(令和元年度)事業計画および予算審議

西部支部運営委員会

委員数：橋本支部長ほか28名

第1回(令和元年5月17日)

場所：リファレンス博多近代ビル

主要議事：

- (1) 令和元年度事業計画

第2回(令和元年8月1日)

場所：リファレンス博多近代ビル

主要議事：

- (1) 令和元年度事業計画の詳細について
- (2) 令和元年度企画について

第3回(令和元年10月28日)

場所：リファレンス駅東ビル

主要議事：

- (1) 令和元年度事業報告(含状況報告・費用報告)
- (2) 令和2年度事業計画案

第4回(令和2年1月16日)

場所：リファレンス駅東ビル

主要議事：

- (1) 各事業の開催報告
- (2) 令和2年度事業計画案

第5回(令和2年3月3日)

新型コロナウイルスのため書面審議

主要議事：

- (1) 令和元年度事業報告・決算報告
- (2) 令和2年度事業計画・予算案